



育つということ

園長 野中 泉

秋の運動会（アトムフェスティバル）の頃だったと記憶しています。みかん組の子どもたちが7、8人、夕方の園庭の真ん中で車座になって何やらまじめな顔で話し合っていました。何を話しているのかまでは聞こえなかったのですが、明らかにごっこ遊びではなく、大人に話し合いなさいと促されたわけでもなく、何事か話し合っ解決しなければならないことが起こったらしく、子どもたちが自ら集まって真剣に話し合っているその姿に、しばらく見惚れてしまったことを思い出します。

今年のみかん組さんは、いつもの年にも増して、よく話し合うクラスでした。アトムフェスティバルで何がしたい？遠足にどこに行きたい？など楽しい話しあいだけでなく、「嘘をついてしまう」「友だちに意地悪なことを言ってしまった」「友だちの物を盗んだ」「〇〇くんは、自分勝手だから、遊びたくない」など、自分や友だちの嫌な気持ちにも真剣に向き合わないといけない苦しい話し合いも、担任は、何度も、何度も子どもたちに投げかけ続けてきました。

よく話しあうクラスだと言いましたが、実は今年のみかん組の子たちは、決してしゃべることが上手な子たちではありません。むしろ、言葉で気持ちを表現するのが苦手な子の方が多いクラスです。でも、饒舌とは言えない子どもたちが、口ごもったり、うまく言葉が出てこなかったりしながらも、長い時間をかけて少しずつ自分を表現し、相手に必死で伝えようとするその姿に、毎回胸うたれます。

当たり前のことですが、子どもは人と関わりながら育っていきます。1歳を過ぎた頃には、おもちゃを取り合っ、かみついたり、叩いたり。言葉や態度できちんと自己表現できないときも、その時できる精一杯の表現で、ぶつかっ、互いにかかわりあい、影響しあっいながら、子どもは成長していきます。その途中には、けんかをして痛い思いもするでしょう。互いに少しずつ傷つけあったり、許し合ったり。つまり迷惑もかけあいながら、でも「ともに生きていく」という感覚を身につけていく。そして、そのことこそが「人が育つ」ということなのだと思っています。

もう間もなく、みかん組の子どもたちがアトムを巣立っていきます。卒園児30名。ほとんどの子がアトムで6年、5年という長い年月を過ごしてきました。

アトムでは、英語やスイミングは教えませんでした。ひらがなも数字もまだ書けない子がいます。でも、子どもたちは、歌が好きです。絵本やお話も大好きです。土手や砂利道を2時間歩けるつよい足があります。セミやバッタがいる木や草むらを知っているし、ザリガニの捕まえ方も知っています。ヨモギの生えている土手も、タケノコが生えている山も知っています。昆布とカツオ節でとった出汁のいい匂いも知っているし、大豆からみそができることも知っています。友だちのことは、いいことも悪いことも、よくよく知っていて、あかんことは、あかんって言ってやるし、困っている子がいたらよったかっ、助けます。そして、何より、何かコトが起こったら「話し合っ」解決していく（わかりあっていく）のだということを知っています。

だから、これからも、きっと大丈夫です。

みかん組さん、卒園おめでとう。